

令和6年度 学校評価自己評価表:計画表 廿日市市立佐伯中学校

- 校訓 「自律」
- 学校教育目標 「夢や目標に挑戦し、自己実現を図る生徒の育成」
- 学校経営目標 知・徳・体の基礎・基本を土台に、夢や目標に挑戦し、自己実現を図る生徒を育成することで、地域から信頼される学校づくりを推進する。
- 学校経営方針 (1)「夢や目標」(生徒が、夢や目標を思い描く)(2)「挑戦」(生徒が、困難を乗り越え挑戦する心を鍛える)(3)「自己実現」(生徒が、自己実現に向けて計画を立て自立する)
- 経営目標・評価項目・評価・達成状況 (◎は重点目標)

評価計画						自己評価					学校関係者評価	改善方法	
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	担当	中間8月	進捗状況分析・今後の取組(8月)	最終2月	達成度	評価5段階	結果と課題の分析	コメント	改善方法
【知】 確かな学力定着の推進	◎基礎・基本の確実な定着	○【令和5年度研究主題】 「主体的に学び続ける生徒の育成～基礎学力の定着と振り返りの充実を通して～」に基づき、次のことに重点的に取り組む。 ・授業の中における学び合いを促進させる指導法の工夫改善〔ICT機器(chromebook)の活用〕 ・家庭学習の習慣化を図る取組の工夫 〔さいきっ子カード〕 〔毎日トレノート等の活用〕	○定期試験における基礎学力〔知識〕の正答率60%以上の生徒の割合【5教科対象】	A…70%以上 B…60%以上 C…40%以上 D…40%未満	教務部	B 60.8%	全体の平均としては60%を超えたが、2年生の5教科の平均が40.2%と、課題がかなり大きい。授業中は落ち着いた様子で学習しているが、試験の結果や成績に対する意識が低い傾向にある。また、毎トレは提出しているものの、質が充実していない。これから試験に向け、毎トレを活用して【知識・技能】項目の復習をするよう呼びかけるなどの取組を行いたい。	55.6%	79%	C	各学年の内訳は、1年生59.6%、2年生35.5%、3年生67.3%で、2年生の課題がなかなか改善されない。2年生は、周りがほとんど同じような点数差、成績をとっているため、危機感がなく、点数を上げようという意欲が見られない。1年生は、授業中の集中や課題の提出率、試験への取組などを見て、3学年の中で最も状況がよい。さらに、家庭学習を充実させることで、学力向上を図りたい。	・先生方には熱心に指導をいただいていると感じる。来年度については1年生が1学級となるようだが、学級の人数が多くなる分より丁寧な指導をお願いします。	課題の大きい来年度の3年生については、授業が5時間分で終わる日に補充的な学習を行うクラスを設け、学習習慣の定着を難しい生徒や、理解に時間がかかったり、個別の支援を必要としたりする生徒の学習を支援する機会とする。
			○学校評価に係る生徒アンケート〔7月・12月〕の項目「グループ活動での関わりを大切にしている」と答える生徒の割合	A…80%以上 B…60%以上 C…40%以上 D…40%未満	教務部	A 92.5%	A	「グループ活動で関わりを大切にしているか」という質問では肯定的回答が非常に高いが、「グループでの活動によって学びが深まっているか」という質問については、ほとんどの教科が80%を超える中、2年生の国・社・数が40%と非常に低い値となっている。グループを活用することで、学びに向かう姿勢が高まるような活動例等を研修していきたい。	93.6%	117%	A	前期よりさらに数値が上がっており、授業の中でのペア・グループの活動は定着しているようだ。教員間からも、①理解が十分でない生徒のサポートをする生徒が一定数いる。②友達の前で自分の考えを表明することで、考えが明確になる。③課題を解決するために効果的である、といった評価が上がっている。	・佐伯高校では今年度国公立大学への進学者は現在のところ5名で、佐伯中出身者もいる。高校では総合的な学習の時間の「SAEKI QUEST」において、自身で決めたテーマを3年間かけて探求していくことで力を付けてきた。佐伯中出身の生徒は中学校生活がとても楽しかったと言う生徒が多く、その雰囲気や高校生活で新しい人間関係をつくり、頑張ることができている。
	家庭学習の充実 《小中連携による共通目標》	○学校評価に係る生徒アンケート〔7月・12月〕の項目「授業以外の時間を使って自分から進んで学習した時間」1時間以上と答える生徒の割合	A…70%以上 B…60%以上 C…40%以上 D…40%未満	教務部	C 54.9%	C	各学年の内訳は、1年生65.1%、2年生38.1%、3年生60.4%となっており、2年生の家庭学習時間に最も課題がある。来年は受験もある中で、今のうちから学習をする習慣をつけておかなければいけない。3学期初めに1・2年生はTSPを行うので、そこに向けて学年で改編等の学習計画を立てさせて、家庭学習につなげていきたい。	47.9%	68%	C	各学年の内訳は1年生50.0%、(▲15.1%)、2年生52.7%、(▲6.3%)、3年生41.2%、(▲0.8%)である。2年生の低さは変わらず課題であるが、1年生の減少幅も課題であり、入学当初のやる気が持続していないように、そのため、進路指導主事から進路についての話をしてもらい、今の学習がいかに大切なことを説いたところ、少し意識の変化が見られた。今後2年生にも同様に進路の話をしてもらいたい。		
【徳】 豊かな心の育成	自他のよさを認め合う「自己肯定感」「自己有用感」の育成 《市教委の重点施策に基づく重点目標》 《小中連携による共通目標》	○生徒指導の充実を図るため、次のことに重点的に取り組む。 ・年2回のアセスの実施と分析、学級経営への反映 ・学校行事や生徒会活動等を中心に、「達成感・成就感を味わうことができる活動」の場の設定と充実 ・生徒会活動の充実(みそあじの進化・発展) ・感謝と貢献する気持ちの醸成と実行	○学校評価に係る生徒アンケート〔7月・12月実施〕項目「自分には、よいところがある」の肯定的評価の割合	A…80%以上 B…60%以上 C…40%以上 D…40%未満	生徒指導部	B 75.9%	生徒アンケート「自分には良いところがある」で肯定的評価をした生徒が75.9%であった。昨年度の同時期は84.7%で、8.8%下がっている。日々の授業や行事等で、生徒の頑張りをタイムリーに評価するなど、生徒の頑張りを一つ一つ声をかけていく。また、様々な行事を計画し、振り返りを行う時に「自分が頑張ったこと」等を考えさせる。	84.3%	105%	A	生徒アンケート「自分には良いところがある」で肯定的評価をした生徒が84.3%であった。8月より8.4%上がった。昨年度の同時期は86.1%で、1.8%下がっている。互いに評価し合ったり、教師が積極的に肯定的評価をしたりして、生徒の自己肯定感を高めていく。	アンケート結果の数字だけではなく、経年比較したデータをもとに、学年ごとの変容を把握し、取組を行っていく。	相互評価、教師評価、自己評価を行い、自己肯定感を高める。・役割を持たせ活動させることで、達成感や自己有用感を育む。
			○学校評価に係る生徒アンケート〔7月・12月実施〕項目「自分のやったことで人から喜んでもらったことがある」の肯定的評価の割合	A…80%以上 B…60%以上 C…40%以上 D…40%未満	生徒指導部	A 90.2%	A	生徒アンケート「自分がやったことで人から喜んでもらったことがある」で肯定的評価をした生徒が90.2%であった。昨年度の同時期は93.3%で、3.1%下がっている。1学期は体育祭で学級練習を積極的に取り入れた。様々な場面でボランティア活動を行った。また、学活等での仲間の良いところ探しをしたりして、お互いを認め合う活動をしている。2学期は文化祭で学年を超えた交流を計画する。	90.0%	112%	A	生徒アンケート「自分がやったことで人から喜んでもらったことがある」で肯定的評価をした生徒が90.0%であった。8月より0.2%下がっている。昨年度の同時期は95.4%で、5.4%下がっている。行事や学級で、役割を持たせる活動や、ボランティア活動を仕組みことで生徒の自己有用感を高めている。	・経年変化を見ていることが大事である。今の2年生、3年生が昨年どうだったかを丁寧にみていき、分析してみてもどうか。
	不登校生徒の減少 《市教委の重点施策に基づく重点目標》	○学校評価に係る生徒アンケート〔7月・12月実施〕項目「みそあじを実行している」の肯定的評価の割合	A…80%以上 B…60%以上 C…40%以上 D…40%未満	生徒指導部	A 89.5%	A	「みそあじ」に関するアンケートで、肯定的評価をした生徒は89.5%であった。「みだしなみ」85%、「そうじ」90%、「あいさつ」90%、「時間」93%と、生徒会活動の「みそあじ」を実行している生徒が多い。引き続き生徒会活動(みそあじレンジャー)等で「みそあじ」を意識させるような活動をしていく。	90%	112%	A	「みそあじ」を意識して生活している生徒は90%であった。できていない生徒の理由としては「困難がある」「名前を付けられない」「積極的に挨拶をしていない」「遅刻が多い」などがあつた。多くの生徒が「みそあじ」を意識しているからこそ、できていない生徒が目立っている状況にある。引き続き、できていないことを評価していく。	・我が子については「学校に行きたくない」とは一度も言わなかった。学校が本人の居場所となっているのだと思う。親としては本当に有難いことだと思う。	個に寄り添う支援、必要に応じた関係機関との連携を教職員が共通認識をもって行う。
【体】 健康な体の育成	不登校生徒の減少 《市教委の重点施策に基づく重点目標》	○不登校生徒数を20%減少させる。 〔令和4年度17人⇒10人以下に〕	○不登校生徒数を20%減少させる。 〔令和4年度17人⇒10人以下に〕	A…10人以下 B…11人以下 C…12人以下 D…13人以上	生徒指導部	B 11人	8月末での不登校生徒は、1年生2人、2年生5人、3年生5人である。そのうち、4月から全欠の生徒は2人である。不登校の要因は様々で対応が非常に困難であるが、教員やSSWが家庭訪問、学校で保護者と面談、保護者がSCと面談、こども相談室に通室、子育て教室と連携、など個に応じた対応をしている。今後も継続して行う。	15人	66%	C	1月末での不登校生徒は、1年生2人、2年生7人、3年生6人である。そのうち、4月から全欠の生徒は2人である。2年生の不登校生徒4人は、子ども相談室と連携を図り、10月から通室することができるようになった。学校と家庭の関係を切らせないように、関係機関とも連携を図りながら、個に応じた対応をしている。		
			学保校護者づくり地域から信頼される	生徒の学校満足度の向上 保護者の学校満足度の向上 時間外勤務の削減 《市教委の重点施策に基づく重点目標》	○自己肯定感・自己有用感の高揚 ○提出物の提出や配布物の受け渡しの徹底 ○「みそあじ」の徹底 ○学校行事や生徒会活動の活性化 ○教室の環境整備 ○迅速で丁寧な保護者連携 ○働き方改革(時間外勤務の削減)	○学校評価に係る生徒アンケート項目〔7月・2月実施〕「佐伯中学校の学校生活に満足している」に対する肯定的回答の割合	A…80%以上 B…70%以上 C…60%以上 D…60%未満	教頭	肯定的評価の理由としては、人間関係が良好で、楽しいと回答している生徒が一番多かった。否定的評価の理由としては人間関係をあげている人が多い。また「なんとなく」とはつきりした理由を挙げている生徒もいる。人間関係を深め、学校生活が充実するよう、行事等の取組を行う。	90.0%	113%	A	肯定的評価の理由としては、8月同様、人間関係が良好で、楽しいと回答している生徒が一番多かった。否定的評価の理由としては、はつきりした理由を挙げている人が多いが、中には人間関係に関することや課題について挙げられている。
	学保校護者づくり地域から信頼される	保護者の学校満足度の向上	○学校評価に係る保護者アンケート項目〔7月・2月実施〕「佐伯中学校の教育活動に満足している」に対する肯定的回答の割合	A…80%以上 B…70%以上 C…60%以上 D…60%未満	教頭	A 93.1%	A	肯定的評価の理由として、教職員の熱心で丁寧な指導ややる気を感じさせるテスト対策や受験対策が挙げられている。否定的評価の理由としては要望として、授業で分からない生徒へのきめ細かいフォローや行事の日曜日開催を希望することなどが挙げられている。	92.2%	115%	A	肯定的評価の理由は、我が子が楽しく充実した学校生活を送っていることが挙げられている。否定的評価の理由は、校則や学力に関すること、生徒に寄り添った指導ができていなかったことが挙げられていた。	・不登校の問題は家庭環境の影響がある生徒もいるので関係諸機関との連携をしっかりとっていくことが大切である。
時間外勤務の削減 《市教委の重点施策に基づく重点目標》			○時間外勤務時間が月平均4.5時間を超える教職員を0人とする。	A…0人 B…1～7人 C…8～11人 D…12人以上	教頭	B 7人	B	指標に対する月別人数は4月11人、5月9人、6月9人、7月7人、8月0人であった。主任層の仕事量が多く、分散が必要である。8月に業務改善の研修を行い、業務の見直し等を行っている。様々な改善案をまずは試行期間を設けてやってみる。	7人	71%	B	指標に対する月別人数は9月7人、10月11人、11月7人、12月5人、1月4人であった。試験作成、採点、成績処理等について事務処理日の設定などにより一定の効果はあつた。行事についての業務の見直しは年度末、年度当初に行う。	業務改善については、教職員から出されたアイデアを実行しながら、実現させていく。主任層の業務と行事についての業務の見直しを年度末、年度当初に行う。